豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		①YPデータや教師間の見取りを基に、計画的に横浜プログラムを実施したり、学年に応じて様々な視点の外部講師による授業を行ったりして人権意識を高める。②道徳の授業や人権教育を通して、相手を思いやり互いを大切にする心情を育てる。③あいさつ運動、子どもの思いを生かした児童会活動、たてわりタイムなどの異学年交流により、繋がりを深め、人間関係力と自己有用感を高める。④異文化体験を通して文化の違いを認め合い、多文化共生の心情を養う。
担当	人権教育・道徳部	

豊かな心に関わる本校の状況

（１）豊かな心に関わる児童の実態
・児童会を中心にあいさつ運動に取り組み、あいさつをすることの大切さや気持ちよさを感じている。しかし、だれにでもすすんであいさつをすることが、習慣化してはいない。
・大人を信頼していて、素直に話ができる児童が多い。相手や場に応じた言葉遣いは、難しい。様々な場面で、人権侵害に関わる発言や行動が見られる。
・互いに協力し、優しく声を掛け合うことはできるが、他者の気持ちを考えた言動・行動をすることが難しい。
・たてわり活動など他学年と交流する機会はあるが、つながりを深めることができていない。
・公共の場での常識ある態度が身についていない児童が多い。
（２）これまでの学校の取組状況
・人権週間に行っている、低学年のテーマに合った絵本を活用した学習、中学年の人権キャラバンによる出前授業、高学年の人権移動教室や社教による出前授業が３年目となり、定着しつつある。また、３年生以上が作った人権標語や、いじめをなくすことについて学級ごとに話し合った内容を全校で共有したり、校長が朝会で人権に関する講話を行ったりした。
・YーPに年間２回取り組み、複数の目でアセスメントシートを作成したり、学級の実態に応じた子どもの社会スキルプログラムに取り組んだりした。
・重点研究では、道徳科に２年間取り組み、日常と授業をつなげることで自分ごととして考えたり、自分自身を振り返ったりできるようにした。また、教育活動全体を通じて、語彙を豊かにすることを意識して指導に当たり、良好な人間関係づくりを目指した。

今年度の目標

教育活動全体を通じて行う道徳教育や人権教育において、人とのかかわりを深めたり互いの思いを伝え合ったりする活動を重視して、自他を大切にする心や自己有用感を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査、Ｙ-Ｐアセスメント、すぐーるによる健康観察、いじめに関するアンケート等を活用し、子どもたちの実態把握に努める。また、そこから見えてきた課題解決に向け、子どもの社会スキル横浜プログラム等を活用する。 ○たてわり活動では、６年生を中心とした小グループの活動を取り入れ、互いに思いやりをもって認め合うことのできる児童を育てる。たてわり活動以外でもペア学年を活用した異学年交流を行い、関わりを深められるようにする。 ○月に1回程度音楽朝会を設定する。学年の発表を聴き合ったり、全校で「今月の歌」を歌ったりする活動を通して、互いのよさを認め合う姿勢や心の安定をめざす。 ○児童朝会や集会活動などの児童会活動やクラブ活動、学校行事など、児童の思いを生かし主体的に取り組める活動を大切にし、児童にとって魅力ある学校になるようにする。 ○福祉プログラムなどの出前授業や、地域の方との交流を通し、様々な立場の人がいることを知り、共に生きていく大切さに気付けるようにする。 ○韓国をはじめ異文化体験を通して、異なる文化を知り、互いの文化の違いを認め合う心情を養う。
下半期	○道徳教育や人権教育を通し、自他を大切にする心を育てる。 ○学校行事や校外学習を通して、集団への所属意識や規範意識の育成を目指す。 ○Ｙ-Ｐアセスメント、すぐーるによる健康観察いじめに関するアンケート、学校評価アンケート等を活用し、子どもたちの実態把握に努める。また、そこから見えてきた課題解決に向け、子どもの社会スキル横浜プログラム等を活用する。 ○人権週間では多様な立場の人がいることを知り、人権意識を高めるための取組を行う。 ○明るく礼儀正しいあいさつができる子どもの育成のため、日常指導を大切にしたり、地域と連携したりする。また、児童会活動として、あいさつ運動の方法について考えるなどして、子どもが主体的に取り組めるようにする。 ○生活科や総合的な学習の時間には、積極的に地域の材を活用することに努め、山王台のまちの一員としての自覚や愛着がもてるようにする。 ○韓国をはじめ異文化体験を通して、異なる文化を知り、互いの文化の違いを認め合う心情を養う。